

## 武漢熱線

大分市武漢事務所  
全 淑 麗

Wu-han Hot Line

## 武漢の自動車産業について

中国の自動車産業は、近年、目覚ましい発展を遂げてきました。中国自動車業界協会と中国工業&情報部が1月に発表した「2011年中国自動車工業運営状況」の統計によると、2011年における中国の自動車生産台数は1,841万台、販売台数は1,850万台で、共に3年連続で世界第1位となっています。

このように発展著しい中国自動車産業のなかで、武漢市は中国の3大自動車産業集積地の1つに数えられており、最近では自動車産業を基幹産業として発展しています。

武漢市は昔から鉄鋼業が盛んであったことや中国の主要都市の中でもほぼ中央に位置しており、昔から交通・物流の要衝として発展し、鉄道、道路、水路、空路などの物流ネットワークが構築されていたことから、自動車産業が発展してきました。

また、武漢市のGDPは全国平均を大きく上回り、周辺都市を含めたマーケット規模は4.5億人にも達することから、自動車消費市場としても大きな潜在需要を秘めており、世界で最も注目を集めるマーケットの1つでもあります。

こうしたことから、日本、フランス、アメリカの自動車メーカー4社と中国国内の2社の計6社が武漢市へ進出しており、中国国内で最も自動車メーカーの集まる都市として、中国自動車産業界をリードする存在になっています。

今回は、武漢市の各自動車メーカーをご紹介します。

## ①神龍自動車

武漢に本部を置く中国三大自動車メーカーの1つである東風自動車と仏プジョー・シトロエングループ(PSA)との共同出資により、1992年に設立。資本金は70億元、武漢第1、第2工場を合わせると年間45万台の生産能力があり、2013年に第3工場が稼動すれば生産能力は年間75万台に達する見込みです。

中国では、タクシー用車両は各都市がメイン自動車メーカーを決めて製造を委託しており、武漢市のタクシー約15,000台の全てが神龍自動車製を採用しています。

## ②東風ホンダ

東風自動車とホンダの共同出資により、2003年に設立。資本金は2.5億米ドル、工場敷地面積76万㎡、従業員数は7千人超。第1工場の年間生産能力は24万台。2012年7月から第2工場が生産を開始しており、初年度は10万台を製造予定。2013年には12万台、2014年には24万台の生産を目指しています。

生産開始以来、年間生産台数が年ごとに約2倍に伸びており、2012年上半期の販売実績が15万台、年間販売目標は32万台です。

現在製造している車種は、CR-V、スピリア(日本のアコード)、シビック、シビックハイブリッド、独自ブランドのCIIMO等で、特にCR-Vは販売実績が既に70万台を突破しており、現在も納車3ヶ月待ちの状態であるなど、「SUV型車の王者」と呼ばれ人気を博しています。



## ③東風日産

東風自動車と日産自動車との共同出資により、2003年に設立。資本金167億元、従業員数7万人超は共に中国自動車産業界において最大規模であり、製品分野も乗用車、商用車のみならず、部品、装備まで多岐にわたります。東風自動車の創業が湖北省であったことから管理本部を省都である武漢市に置いており、武漢市の北西に位置する襄陽市のほか、広東省広州市花都、河南省鄭州市が3大生産工場となっています。これらの3工場の合計年間生産能力は100万台にもなります。襄陽市工場では、2014年から日産の高級車であるインフィニティを生産開始する予定です。



## ④上海通用

東風自動車と並び中国三大自動車メーカーの1つに挙げられる上海自動車と米ゼネラルモーターズ(GM)の合弁企業。武漢で乗用車プロジェクトを立ち上げ、2012年6月に定礎式を開催。このプロジェクトには総額70億元を投じ、敷地面積2.32km<sup>2</sup>の工場を建設する計画で、中・小型乗用車、SUV車を中心に2014年から生産を開始する予定。年間生産目標は30万台。

以上のように、神龍自動車、東風ホンダ、東風日産に加え、上海通用の参入により武漢の自動車産業は更なる発展を遂げることが予想され、「中国のデトロイト」にまた一歩近づいたと言えるでしょう。

なお、皆さんも報道等でご存知のとおり、9月の領土問題発生以降、中国における日本車の販売台数は落ち込んでいますが、インターネットの情報によると、武漢では逆に日本車の販売台数は増えているとのこと。